

11分野の2011年度重点取り組み事項・実績および2012年度

- ・安全は、事業の根幹をなす最重要課題であるとの認識のもと、安全基本計画に基づく取り組みを進めています。
- ・そのほかの10分野については、CSR推進委員会のもとで重点取り組み事項を設定し、取り組みを進めています。

安全

分野	安全基本計画の具体的な取り組み事項	2011年度主な取り組み事項・実績	総合評価	
安全	リスクアセスメントに基づく安全管理の確立	リスクアセスメント	・リスクアセスメントの実施(実績:現場約28,000件・支社約1,800件・本社約150件) ・現場・支社・本社のそれぞれにおいてリスク評価を行うとともに、リスク低減策を検討実施 ・全社員に「リスクアセスメント解説書」の配付および取り組みの水平展開	○
		事故の概念の見直し	・事故概念見直しの趣旨の浸透の進捗	○
	事故から学ぶ教育の効果向上		・「鉄道安全考動館」における安全研修および福知山線列車事故現場における現地研修・立哨・特別講義の実施 ・他会社で発生した事象などを参考にした異常時対応訓練の実施 ・過去の事故を安全な業務遂行に活かす取り組みの実施、推奨事例の水平展開	○
	安全基盤の形成	安全を支える技術の向上	・「実務能力標準」などのさらなる充実と「実務能力標準」を活用した育成プランの実行 ・マニュアル類の分かりやすさ、使いやすさの追求 ・技術スタッフや安全の専門家の育成	○
		安全を支えるコミュニケーションの改善	・業務運営上必要となる連携と情報の洗い出しと課題の抽出、改善の実施 ・確認会話が定着している状態、目指すべき姿を設定し目標を共有化 ・現場長または役員の課題認識に基づいた安全ミーティングを実施	○
		ヒューマンファクターに基づく安全性の向上	・ヒューマンファクターの観点に基づく研究の推進と研究成果の活用 ・運転係員に対する知識・技能確認の仕組みの整備および活用	○
		安全を支える現場力の向上	・小集団活動が形成され、現場における自律的な課題解決能力の推進	○
		安全をともに築き上げるグループ会社などの一体的な連携	・各箇所においてグループ会社との定例会議などを実施することにより、さらなるコミュニケーションの活性化	○
		事業を支える人材の確保と育成	・退職制度の見直しや採用の多様化などによる、必要な人材の確保 ・研修センターの実習設備を活用した教育や訓練の実施	○
		安全をともに築き上げるための社会、お客様との連携	・踏切での啓発活動などを実施 ・安全に関する「お客様の声」に基づく改善を実施	○
安全投資	・安全に関わる設備投資約977億円	◎		

安全以外の10分野

Plan 基本方針		Do 取り組み	
分野	2011年度CSR重点取り組み事項	2011年度主な取り組み事項・実績	総合評価
CS(お客様満足)	「お客様の声」などへの対応の充実	ご意見・ご要望などへの対応を迅速化、多様化/「お客様の声」に基づく改善の実施(ホームページで遅延証明書の発行を開始/「列車運行情報」を15分遅れで提供など)	△
	より利便性が高く、快適なサービスの提供	快適な駅・車両を提供(OSAKA STATION CITY開業、287系「くろしお」新規投入など)/より利便性が高いサービスを提供(エクスプレス予約のスマートフォンへの対応など)	○
	お客様の安心につながる取り組みの実施	輸送障害への対策と異常時対応の充実(業務用携帯端末の活用による異常時ご案内の充実など)/日々の鉄道ご利用の中の「安全・安心・快適」を向上(女性専用車の設置など)/安全に関してお客様にご協力を依頼	△
	JR西日本グループ一体となったCSマインドの向上	創意工夫で業務品質向上に取り組む(CSミーティングなどの開催/部外講師によるCSセミナーの開催)	△
地域との共生	便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献	便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりに向けた広島エリアの現状把握および課題整理/各プロジェクトを通じ関係自治体などとの検討の場を設定/広島・岡山エリアのプロジェクト推進	○
	観光を契機とした地域活性化への貢献	地域と連携し観光キャンペーンを推進(観光地の魅力向上と鉄道とバスの接続などのアクセスの改善、商品化や情報発信(プレキャンペーンによる試行)/自治体やグループ会社を含め「地域」一体となったおもてなし/駅整備、観光路線などを含む駅の活性化/地元産品のPR・販路拡大)	○
	快適で利便性の高い生活圏の創造	沿線満足度アンケートを取りまとめ、線区ごとの課題を明確化/「琵琶湖線」/「JR神戸線」をモデル線区とし、子育て環境の充実など、地域ニーズに応える駅設備プランを策定、具体化推進	○
	社会貢献活動のさらなる充実	「安心な社会」の構築を目指す取り組み実施(相次ぐ自然災害の中、会社としてボランティア活動の支援制度を拡充/企業ホームページ「社会貢献活動の取り組み」更新/支社などで計画した活動を実施など)/社員参加のもとJR西日本あんしん社会財団と連携し「救急フェア」実施/社員一人ひとりが地域の社会活動に参加	○

重点取り組み計画



※総合評価 ◎:計画を上回った、○:計画どおり進んだ、△:進んでいるがスケジュールの遅れあるいは解決すべき課題がある
 ※総合評価は自己評価です。

2012年度主な取り組み計画

- ・知見を有した管理者などの視点を加えたリスクアセスメントのレベル向上
 ・本社・支社間の情報交換を通じた推奨事例や取り組みの水平展開
- ・事故概念の見直し趣旨のさらなる浸透
- ・「安全考動館」における現場管理者を中心にした3巡目の研修および現地研修・立哨・特別講義を継続実施
 ・さまざまな場面を想定した異常時に対する対応能力を向上させる訓練の実施
 ・「過去の事故から学ぶ」取り組みの現場推奨事例の水平展開の継続および取り組みに対するレベルアップ、環境整備の支援
- ・「実務能力標準」を活用した社員の育成 ・マニュアルの分かりやすさ、使いやすさの追求を継続実施
 ・技術スタッフや安全の専門家の育成
- ・業務運営上必要となる連携や情報の洗い出しと課題の抽出、改善の実施
 ・現場長または役員の課題認識に基づく安全ミーティングの継続実施
- ・ヒューマンファクターの観点に基づく研究のさらなる推進と研究成果の活用
 ・運転係員に対する知識・技能確認の仕組みの構築
- ・小集団活動などの活性化の取り組みを支援し、現場の自主改善の取り組みを促進
- ・各箇所および本社などにおける会議などを活用した情報共有およびコミュニケーションの活性化を促進
- ・指導層の再雇用制度新設など人材確保に向けた取り組み
 ・教育設備の整備・活用
- ・踏切での啓発活動などを継続実施
 ・安全に関する「お客様の声」に基づく改善を継続実施
- ・年度計画に基づき計画的に実施（約690億円）

Check 評価

Action 今後の方針

コメント

2012年度CSR重点取り組み計画

<p>いただいたご指摘についての対応の迅速化や改善は進みつつあるが、より一層の充実を図っていく。</p>	<p>「お客様の声」などへの対応の充実 達成レベル: 「お客様の声」などに基づく改善の増加・迅速化</p>
<p>駅のバリアフリー化工事は2011年度末で283駅が完了(2010年度末254駅) / 「お客様満足度調査」の「駅設備」「車内環境」の評価が向上 / 「お客様の声」で増加傾向にあった「きっぷ」などの誤った発売が減少 / 駅のフロントサービス調査の結果が上昇</p>	<p>より利便性が高く、快適なサービスの提供 達成レベル: より安全で、より使いやすい設備やシステムの整備</p>
<p>駅ディスプレイは2011年度末で139駅に設置(2010年度末112駅) / 「お客様の声」の安全・安心に関するご指摘が減少 / 「お客様満足度調査」の「安全で安定した運行などへの取り組み」の評価は、前年同様、低い評価にとどまる</p>	<p>お客様の安心につながる取り組みの実施 達成レベル: 異常時のお客様へのご案内の充実 / お客様へのご協力依頼の推進による安全・安心な駅、車内空間の実現</p>
<p>「お客様の声」のお礼・おほめが増加 / さらにCSの重要性を浸透させ、日々の業務の品質改善につなげていくことが必要</p>	<p>JR西日本グループ一体となったCSマインドの向上 達成レベル: 社員の気付き・考動に基づく改善の増加</p>
<p>広島エリアの課題整理を行うとともに、橋上化、新駅設置などのプロジェクトに着手することができた / プロジェクトを通じて関係自治体などとの意見交換の場を持つことができた</p>	<p>便利で暮らしやすく魅力あるまちづくりへの貢献 達成レベル: 広島エリアにおける関係自治体との対話の継続、協働の推進 / 他エリアへの取り組みの展開</p>
<p>プレキャンペーンにあたる「鳥取・因幡の国キャンペーン」、「山陰・なかうみキャンペーン」において、交流の拡大、観光地の魅力向上やおもてなしの取り組みの効果を確認しながら進めることができた / イベントや駅舎の改良などにおいて、地域と一体となって取り組むことで、地域とのネットワークを広げることができた</p>	<p>観光を契機とした地域活性化への貢献 達成レベル: 山陰デスティネーションキャンペーン期間中に前年を超えるお客様にお越しいただくことと、リピーターなどによるその後の継続 / デスティネーションキャンペーンを契機とした支社主体の幅広い分野での対話、連携の実現 / 山陰エリアをモデルとした同様の取り組みを他エリアでも実現</p>
<p>子育て世代に向けた地域情報発信誌を創刊するとともに、西宮駅に認可保育所を誘致 / 近畿エリアの一部の駅において、ホームベンチのリニューアルや案内表示の設置を実施し、駅設備を中心に進捗 / バスアクセスの改善など、利便性の向上が今後の課題</p>	<p>快適で利便性の高い「生活圏」の創造 達成レベル: 取り組みを広げていくにあたって、これまでの取り組みをお客様目線で振り返る</p>
<p>制度拡充のみならず、活動参加者の座談会など、振り返りの場を設け、社内誌などにより情報を発信、水平展開した / 企業ホームページを定期的に更新し、積極的な活動を促進した / 本社単独の活動実施には至らず。ただし自然災害を受け拡充した制度を複数の本社社員が利用した / グループ会社・OB会の協力を得ながら「救急フェア」を実施、安全・安心な社会づくりに貢献した</p>	<p>社会貢献活動のさらなる充実 達成レベル: 助成先への当社のフォローアップによる相互交流の実現 / 当社やNPO、自治会などと連携した救急救命の啓発活動の開催、地域からの「おほめ」の増加 / 本社主導の活動を1回以上実施 / 支援体制や基準を規定、明文化</p>

Plan 基本方針

Do 取り組み

分野	2011年度CSR重点取り組み事項	2011年度主な取り組み事項・実績	総合評価
地球環境	エネルギー消費量やCO ₂ 排出量削減に向けた具体的な取り組み、グループ全体での省エネルギー・省資源の取り組みの推進	省エネルギー車両の導入推進(75.3%)、エネルギー消費原単位を削減(△15.4%以上)／上下タイキ電(阪和線2箇所)を竣工／「エコステーション設計ガイドライン」の電気、水編の作成／駅の照明回路分離などによる昼間照明の省エネルギー化を推進／駅ごみ、列車ごみの分別を推進し、次期リサイクル率の目標策定に着手／鉄道資材の3Rを推進	○
	電力需給問題に対する節電の取り組み	省エネルギー運転の全社での実施に向けた取り組み体制を構築／建物内の照明の一部消灯や空調の温度管理の徹底、駅機械の一部停止、車内照明の昼間消灯、空調の温度管理の徹底などを実施	○
	グループ全体での「考動エコ」の推進、環境意識の醸成、環境データ収集の充実、および各職場の業務にあった環境管理の推進	「考動エコ」の取り組みを情報発信／グループ会社(73社)からの環境データ収集項目に水・紙使用量を追加／グループ会社と一体となった環境教育(1,753人)、教育支援(32回)、環境審査(226箇所)を実施	○
	他の交通機関や地域との連携強化、公共交通の利用および社会貢献活動の促進	自治体や私鉄と連携し公共交通利用を促進／山陽・九州新幹線相互直通運転の訴求、「パーク&ICOCA」を拡大、鉄道の環境優位性のPR、「エコライフポイントサービス」の対象店舗を拡大／地域と連携した環境展など環境啓発活動や生物多様性保全に寄与する社会貢献活動を実施(23件)	○
人材・EES(働きがい)	事業運営に必要な人材の安定的確保	社内外の労働市場から多様な人材を確保／機械化・システム化・省力化施策を推進	△
	「自ら考え行動する社員」の育成	実務能力標準と育成プランの整備／人材育成支援システムの活用を促進／業務改善活動の活性化に向けた取り組みを推進	○
	自由闊達で働きがいがある職場づくり	コミュニケーション能力向上の取り組みを継続／ワーク・ライフ・バランスの充実などによる、いきいきと活躍し、一体感が持てる職場づくりを推進	△
コンプライアンス	企業倫理教育のさらなる改善	企業倫理推進員(課長・現場長など)539名に一般社員に対するトレーナー研修を実施／本社主管部の協力のもと、解説付きの事例を作成し、各箇所ですディスカッションを実施／eラーニングの内容をブラッシュアップして実施	△
	「4つの自問」「社会の信託」の浸透	企業倫理推進員間にあわせて、「4つの自問」「社会の信託」についてポスターの掲出の実施／ポスター掲出にあわせ、各職場で理解を深める取り組みを展開	○
	企業倫理委員会からの提言の経営への反映	4回の委員会を開催し、これまでの当社の取り組みなどについて議論を深度化	○
危機管理	リスク情報の報告体制の拡充とデータベース化された情報に基づくリスクの低減	1日平均の報告件数は、2009年・12件→2010年・40件→2011年・57件と推移(2009年の約4.8倍)／支社との関係において、リスク事象を共有することの充実を図るとともに、改善事例を吸い上げる仕組みを構築／本社内関係主管部とリスク事象を共有するネットワークを拡大	○
	災害対策を基軸とした危機管理体制の構築	支社・グループ会社における共通業務に係る事業継続計画(BCP)の策定支援／「安否確認システム」を活用した安否確認・非常招集訓練を実施、9月の台風災害時には和歌山支社において実際場面を活用／本社対策本部を対象とした、参加者にシナリオを事前に提示しない実践的訓練を実施予定(地震想定、3月)／本社を中心として災害用備蓄を推進	△
ディスコミュニケーション	社内外に向けた情報発信の拡充	社内については「壁新聞」「社員向けメールニュース」を開始し、社員への情報発信手段を充実／社外についてはマスコミに対し、多様なレクチャーの選定、種々の発表方法の組み合わせを行い、報道効果を向上／企業ホームページのリニューアルやブログの開始により、WEBによる発信力を向上	○
	事故・不祥事などに関する適切かつ迅速な情報開示	迅速かつ正確な情報の収集および発信／鉄道ゼミナールなどで記者の鉄道オペレーションへの理解を促進	○
	組織的な広報力の向上	「広報部門理念」「広報部行動指針」を策定し広報部内で定着化／各支社の実態調査を踏まえ広報力向上に向けた各施策を実行／支社広報社員への個別リサーチを踏まえ、個人把握とともに体系的な教育を実施	△
情報セキュリティ	情報セキュリティのPDCAサイクルの定着に向けた取り組みを継続	個人情報保護の取り組みに係る説明会を半期ごとに実施。支社の指導責任者などに対して、取り組みの研修会および本社社員による支社での実地指導を実施／eラーニングなどにより全社員にセキュリティ教育を実施／グループ会社へのセキュリティ教育指導者研修を実施、教育教材を改善	△
	ウイルスの脅威に対する端末などのセキュリティ強化	会社指定のウイルス対策付きUSBメモリのみ使用できる仕組みを導入／ウイルス感染の媒介となるUSBメモリの使用を抑制する環境づくりを推進	○
	安全な環境「G-NET」でのJR西日本グループの情報共有化の推進	電気総合設備管理システム、保線業務管理システムの構築を推進	△
資材調達	コンプライアンスの確立	集合研修・意見交換会などを通じ、現場担当者へ資材に関するコンプライアンス事項を周知／取引先のコンプライアンス違反について、把握手順・実施担当者・確認時期を明確化	○
	品質管理レベルの維持向上	取引先の品質管理体制立入確認の継続実施(43事業所／計画約50事業所)／取引先の関係法令の周知徹底状況の確認・指導を継続実施(書面確認109社・実地確認29社／全対象109社)	○
人権啓発	人権感覚を高めるための取り組みの推進	全職場での人権課題の取り組みの定着化／各職場での人権標語応募作品を活用した、社員の参画意識のさらなる向上(標語応募：全社46,442編、対前年125%JR24,871編128%、グループ会社21,571編121%)	△
	人権研修の充実	職場のニーズに応じた参加体験型教材などの充実、習熟度向上のための効果的な対策検討／研修の完全実施、早期実施に向けた進捗状況の把握と支援の実施(受講率(当社99.9%、グループ会社100%))	△
	人権推進体制の整備	各箇所における「年間業務計画表」の活用および定着を推進／グループ会社を含めたモニター職場との意見交換を通じ、問題点の把握と具体策を検討	○

Check 評価

Action 今後の方針

コメント	2012年度CSR重点取り組み計画
<p>ハード的な施策や原単位については目標を達成した/「エコステーション設計ガイドライン」は順次作成中/環境負荷の中長期削減目標の検討を実施した</p> <p>夏期および冬期についてお客様のご協力を得ながら節電の取り組みを実施した/省エネルギー運転方法の一般理論を概ね確立した/駅・オフィスなどへLED照明を導入した</p>	<p>エネルギー消費量の削減</p> <p>達成レベル: 省エネルギー車両の導入率76.7%/エネルギー消費原単位△15.5%以上(1995年度比)/電力需給に対応した節電の取り組みの推進/全運転職場で省エネルギー運転に取り組み/新たな省エネルギー目標の設定</p>
<p>「考動エコ」の情報発信などにより、取り組みが拡大した/グループ全体の環境データを開示した/環境教育、支援、審査はほぼ計画通りに実施した</p>	<p>グループ全体での環境保護活動の取り組み強化と環境意識の醸成</p> <p>達成レベル: 考動エコ事例発信(年間120件)/グループ会社において環境に配慮した事業運営の継続/駅ごみ、列車ごみ、鉄道資材3Rの新たなリサイクル目標の設定</p>
<p>私鉄との乗換利便性を向上した(東福寺駅乗換口の設置)/「パーク&ICOCA」や「エコライフポイントサービス」は計画通り拡大した/環境展は各地で活発に行われている</p>	<p>公共交通の利用促進および地域との連携強化、生物多様性保全活動の促進</p> <p>達成レベル: お客様参加型サービスの継続提供/地域での取り組み実施(年間30件)</p>
<p>人材確保については目標通り進捗した/機械化・省力化については具体的な計画を引き続き検討している</p>	<p>事業運営に必要な人材の安定的確保、省力化など</p> <p>達成レベル: 採用数などの計画達成/機械化などのメニューが予定通り達成</p>
<p>「実務能力標準」などを整備し、システムを活用した育成を実施した/働きがいアンケート「目標達成の取り組み」などは前回より向上した</p>	<p>「自ら考え行動する社員」の育成</p> <p>達成レベル: 「働きがいアンケート」の項目「目標達成」、「技術継承」、「社員の能力向上」の点数向上</p>
<p>働きがいアンケート「上司とのコミュニケーション」「心身の活力」などの項目が前回より向上したものの、一層の改善が必要</p>	<p>自由闊達で働きがいがある職場づくり</p> <p>達成レベル: 「働きがいアンケート」の項目「コミュニケーション」、「一体感」、「心身の疲労感」の点数向上</p>
<p>推進員へのヒアリングで、事例が分かりやすく、効果的な教育が行えたという意見が多く聞かれた/いくつかの箇所、自らの業務に即した事例が不足した</p>	<p>「守るべき一線」の徹底に向けた教育・啓発の充実</p> <p>達成レベル: ディスカッションが「効果的」との意見増加/「4つの自問」についての認知度向上</p>
<p>上記ディスカッションとあわせて取り組みを実施することで、多くの箇所で浸透が図られた</p>	<p>内部通報制度の浸透および対策の水平展開によるリスク低減</p> <p>達成レベル: 倫理相談室の認知度向上/通報された事象の再発防止策の全社共有</p>
<p>2012年2月に出された提言について、経営計画などに反映した</p>	<p>グループ会社と一体となった企業倫理の推進</p> <p>達成レベル: ディスカッションをはじめ各種取り組みのグループ会社への水平展開</p>
<p>グループ会社からの報告は2009の約1.7倍に留まっている/各支社がいつでも改善事例を参照できる仕組み構築に着手した/関係各部にリスク事象データを提供した</p>	<p>リスク低減サイクルの推進と深度化</p> <p>達成レベル: リスクマネジメント手法をより意識したリスク事象報告や分析・改善の仕組みを確立</p>
<p>共通業務に係る事業継続計画(BCP)の策定率は支社・グループ会社とも100%達成見込み/「安否確認システム」の登録率は向上したが、活用の多様化を一層進める必要がある/シナリオ非提示型訓練について、より実践的なシナリオ策定などにさらなるブラッシュアップが必要</p>	<p>訓練を契機とした危機対応能力の向上</p> <p>達成レベル: シナリオ非提示型各種訓練を契機とした各種対応要領・マニュアル類の検証・見直しの実施</p> <p>備蓄・安否確認の拡充</p> <p>達成レベル: 備蓄の保管ルール策定、明文化/必要な箇所での備蓄の実施/「安否確認システム」を活用した実践的な訓練を本社・支社で実施</p>
<p>「会社の情報が届かない」などの社員の声に向き合った解決策を導入した/マスコミに対し、概ね戦略性を持った情報発信ができており/企業ホームページについては、ブログへのアクセス数調整、好評を得ている</p>	<p>社内外に向けた情報発信の拡充</p> <p>達成レベル: <社内>社内広報に対するヒアリングなどで社員評価・満足度向上/ <社外>情報開示姿勢に対する指摘がない/企業ホームページのアクセス数向上</p>
<p>マスコミや企業ホームページなどを通じて適時適切に情報を開示した/記者向けに鉄道セミナーを計4回実施した</p>	<p>—</p>
<p>広報部門の目的が共有化され、個々人が広報活動を実践しているが必ずしもすべてが計画的であるとは言えない/異常時における報道対応などのさらなるレベルアップが必要である</p>	<p>組織的な広報力の向上</p> <p>達成レベル: 「広報部門理念」「広報部行動指針」の理解向上/重大事故発生時の広報体制の規程化/広報担当社員への特別研修の定期的実施</p>
<p>重大な個人情報漏えい事故は0件/不注意による個人情報紛失事故などは依然発生/システムセンター内の評価基盤の内部統制評価は「有効」(7基盤)</p>	<p>情報セキュリティのPDCAサイクルの定着に向け、点検や社員教育の充実・改善の取り組みを継続</p> <p>達成レベル: 重大な個人情報漏えい事故0件(2011年度:0件)/システムセンター内の評価基盤の内部統制評価「有効」が9基盤に増加(2011年度:7基盤)</p>
<p>大規模なウイルス感染によるサービス停止は0件</p>	<p>サイバー攻撃やウイルスなどの脅威への対策強化ならびに情報システムの被災対策の推進</p> <p>達成レベル: 大規模なウイルス感染によるサービス停止、サイバー攻撃による重大な被害、災害による大規模なシステム障害0件(2011年度:0件)</p>
<p>計画通り、2システムの構築を推進</p>	<p>IT利用環境の急激な変化に伴うリスク対応</p> <p>達成レベル: スマートデバイスに係る重大なセキュリティ事故0件(2011年度:0件)</p>
<p>関係社員へのコンプライアンス事項の周知を継続している/コンプライアンス違反の把握方法を整理し、適切な対応を継続実施している</p>	<p>コンプライアンスの確立</p> <p>達成レベル: 資材に関するコンプライアンス事項の、財務部資材および使用箇所関係社員への継続的周知の実施</p>
<p>品質管理体制立入確認は、ほぼ計画通りに実施したが、実効性向上のため適宜手法を改善しての継続実施が必要/関係法令の周知徹底は、取引先で一定のレベル向上が見られたが、引き続きジェイアール西日本商事(株)と連携し、継続的確認・指導が必要</p>	<p>品質管理レベルの向上</p> <p>達成レベル: 品質管理体制の立入確認の継続実施/取引先との関係法令の周知徹底状況の確認・指導の継続実施</p>
<p>取り組みは各職場で実施されたが、一部職場において定着が不十分/応募数は対前年大幅に増加したが、活用という点では工夫の余地がある</p>	<p>差別事象発生防止の取り組み</p> <p>達成レベル: 差別事象についてリスクマネジメントの推進のための土壌構築</p>
<p>4種類の参加体験型教材を活用しやすいようにイントラネットに掲載した/上期に計画通り実施できていない箇所が見えられた</p>	<p>人権感覚を高めるための取り組みの推進</p> <p>達成レベル: 人権課題の取り組み定着/人権標語の応募件数および参加率増加</p>
<p>各箇所およびグループ会社も作成し進捗状況の把握に活用できた/計画通りに実施することができた</p>	<p>人権研修の充実</p> <p>達成レベル: 参加体験型研修による意見交換と「気付き」の浸透/差別事象防止に向けた研修の早期実施(上期実施率向上)、完全実施(当社、グループ会社とも)</p>